



～ 夢ひとすじに ～  
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 26 年度 第 9 号  
平成 26 年 12 月 3 日 (水) 発行  
さいたま市立宮原中学校  
メールアドレス  
miyahara-j@saitama-city.ed.jp  
ホームページアドレス  
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

## 「時代の証言者」

校長 やました 山下 せいじ 誠二

11月8日に開催されました、埼玉県中学校駅伝競走大会においては、男子が優勝、女子が21位と健闘しました。全国大会が開催されて今年で22回目ですが、さいたま市の公立中学校では、女子の宮前中と同時に初めての出場となります。また、男子における優勝は、さかのぼること昭和37年の桜木中学校以来、52年ぶりの快挙です。11月30日には、全国大会に先立ち、関東大会が東京八王子市で開催されました。各都県の代表33校が出場しましたが、レベルの高い関東で宮原中は、見事6位入賞を果たしました。12月14日、山口県で開催される全国大会に向けて、体調万全で臨んでほしいと思います。

さて、読売新聞に「時代の証言者」というコラムがあります。先月まで寄稿されていたのは、体操の池田敬子(旧姓...田中)さんです。現在、81歳ですが、いまだにジュニア選手の育成に尽力されている方です。池田さんは、メルボルン、ロマ、東京と3つのオリンピックに出場されました。特に東京オリンピックの時はもうすでに結婚されていて、オリンピックの前年に29歳で出産。体操協会に体操選手が出産とは何かと怒鳴られましたが「子供は何億の(精子の)中から生まれる。自分たちだって、そうして生まれてきたんじゃないの。」と反撥し、合宿中には、浴衣を裂いてオムツを作り、川で洗濯したり、跳び箱の一番上の段を逆さにして揺りかごにして育児をしながら練習されたそうです。日本は、東京では3位以内が絶対条件の中、女子選手で唯一、三大会連続出場して見事銅メダルを獲得されました。池田さんの長女は、小さい時から体操の訓練をさせていたので運動が得意になりました。しかし、二人目の子は、夫婦共々体操の選手なので、運動の素質は十分だろうと、特別な訓練をしなかったのだそうです。そうしたら、4歳になっても、跳び箱からも飛び降りられない運動音痴。あわてて訓練しても、運動は得意にならなかったそうです。才能のある親から産まれたから、子供に才能が芽生えるのではありません。池田さんの生き方を見ると、なんとなく日本の歴史が見えてきます。学問としての歴史ではなくて、生き方を知ることによって学ぶ歴史って重要なことだと思います。歴史を伝えてくれる日本のス・パ・ウ・マンは、身近にもいっぱいいると思います。その強い女性の一人、柴田トヨさんの百歳という詩には、次のようなことが書かれています。

私 来年になると百歳になるの 奉公 戦争 出産 貧しい生活 いじめられたり 悩んだり 辛いこと 悲しい  
こともあったけれど 空は 夢を育み 花は心に潤いを 風のささやきは幾たび 私を励ましてくれたことだろう  
あっ という間の99年 両親も夫もお友だちも みんな 逝ってしまった でも 次の世で会えるわね 私 笑顔  
で会いたい そして いろいろなこと話してあげたい 百歳のゴールを胸を張って駆けぬけよう・・・

池田さんや柴田さんだけではないと思いますが、多くの人々の歴史がある中で、「時代の証言者」として後世に日本人としての歴史を伝えていただいていることに心から感謝したいと思います。

駅伝全国・関東大会出場への寄付金、ありがとうございました。地域の皆様、卒業生、在校生をはじめ、多くの皆様のご協力に感謝いたします。